

競 技 注 意 事 項

1. 本大会に適用する規則は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則による。

2. 練習について

(1) 練習は、雨天練習場を使用することができる。メイン競技場内の練習については、以下の要領で練習を認める。投てき練習は指導者付添のもとで練習を行う。

		トラック	跳 躍	投てき	終了後	トラック	跳 躍	投てき
11/7 (土)	9:50 まで	走練習 ※1 ハードル	男子走高跳 男女棒高跳 ※2 男女走幅跳	男女ハンマー投 男女円盤投	18:30 まで	走練習 ハードル	女子走高跳 男女三段跳	男女砲丸投 男女やり投
11/8 (日)	9:30 まで	走練習 ハードル	女子走高跳 男女三段跳	男女砲丸投 男女やり投				

※1 リレー練習はバックストレートのみとする。

※2 棒高跳についてはバックストレート側で競技を実施するが、天候によってはAゾーンで競技を実施する。その場合、棒高跳の朝の練習時間は男子走高跳練習終了後の9:30からとする。

(2) 芝生内は投てき種目専用とし、芝生内の走ドリルや他種目練習は一切禁止とする。ハンマー投については、ひも付きメディシンでのサークルからの投てき練習を認める。

(3) トラックでの練習レーンは1・2レーンを中・長距離、3～6レーンを短距離・リレー、7・8レーンをハードル競技とする。

(1日目・・・7レーン女子100mH・8レーン男子110mH各5台目まで)

(2日目・・・7レーン女子400mH・8レーン男子400mH各5台目まで)

(4) 練習会場内において、牽引ロープ、ラダー、ミニハードル等の器具を用いた練習は禁止する。

3. 招集について（トラック・フィールドとも）

(1) 競技者招集所は、競技場正面入り口右側付近に設ける。

(2) 招集時刻は競技開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。

トラック種目 30分前開始 20分前完了

※組ごとに招集時間が異なるためタイムテーブルに記載の時刻を厳守すること

フィールド種目 50分前開始 40分前完了

※棒高跳のみ 70分前開始 60分前完了

競技者は招集開始時刻（点呼開始時刻）に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際係員にアスリートビブス・氏名・校名と競技用シューズの点検を受けること。招集完了時刻に競技者係の指示により移動する。（点呼後は、待機場所を離れないこと）

(3) 招集完了時刻に遅れた選手は、その種目の出場を認めない。

(4) 2種目を同時に兼ねる選手は、競技者係に多種目同時届を提出し、競技進行に支障のないようにすること。

(5) リレーのオーダー用紙は、第1組目の招集完了時刻の1時間前までに招集所役員に提出すること。変更がない場合でも提出すること。オーダー用紙は招集所に準備している。オーダー用紙の提出がない場合は棄権とみなす。

(6) 棄権する場合には、各種目とも招集開始時刻までに競技者係に申し出ること。

(7) 入退場時の移動は審判員の指示に従い、規律ある行動をとること。

4. アスリートビブスは各種目とも、胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍種目は背（胸）部に1枚でもよい。800m・4×400mRのアンカーは、右腰に別ビブスを使用する。1500m以上の長距離種目は胸・背・腰に別ビブスを使用する。選手は招集開始時刻までに自分のアスリートビブスを提示し、競技者係から別ビブスを受け取り、ユニフォームにつけた状態で最終確認を受けること。なお、その別ビブスはフィニッシュ後、直ちに返却すること。

5. 不正スタートについてはTR16.7、TR16.8を適用する。

6. 走路順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載順序による。ただし決勝の組み合わせとレーン順の決定は主催者で行う。なお、男子5000m・女子3000mについては、参加人数によって二段階スタート方式で行う場合がある。

7. 選手の変更は認めない。プログラムの記載に誤りのある場合は、当日の競技開始1時間前までに本部へ届け出ること。

8. 携帯電話・ビデオ・音楽プレーヤーもしくは類似の機器、通信機能のある腕時計等の競技場内への持込は禁止する。

9. 長距離種目においては、競技運営上次の記録を超えた場合は新たな周回には入れない。
男子5000m：1'9"00" 男子3000mSC：1'3"00" 女子3000m：1'4"00"
男女5000mW：4'0"00"

10. フィールド競技においては、以下の種目で、次の記録ラインに達しない場合は計測しない。
(天候などにより変更をすることがある)

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	5m70	10m50	8m50	20m00		38m00
女子	4m00	9m00				20m00

11. 跳躍競技のバーの上げ方は、次のとおりとする。(天候などにより変更することがある)

種目	練習	開始の高さ	バーの上げ方	
走高跳(男子)	1m45	1m50	1m80まで5cmずつ	1m80以後 3cmずつ
走高跳(女子)	1m25	1m30	1m45まで5cmずつ	1m45以後 3cmずつ

棒高跳については当日のコンディションにより現地にて決定する。

※1位決定におけるバーの上げ下げは次のとおりとする。

走高跳 2cm 棒高跳 5cm

12. 競技用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳のポールと投てき用具については、個人のものの使用を認める。投てき用具の検査は、競技開始1時間30分前から1時間前までにフィニッシュ付近の倉庫内で行う。

13. スパイクシューズのピンは11本以内とし、長さは9mm以下とする。ただし、走高跳とやり投は12mm以下とする。

靴底の最大の厚さはTR5.2を適用する。必要に応じ、**競技開始前、競技中または競技終了後に競技役員が検査をする。**

14. 危害防止について

(1) セパレートレーンの競走競技においては、フィニッシュライン通過後は自己レーン(曲線)に沿って進むこと。

(2) 投てき競技においては、審判員の指示以外に勝手に練習しないこと。

15. 各種目とも、上位3位までに入賞した選手は表彰を行うので、決勝アナウンス終了後ただちに(本人が他種目に出場の場合は代理人)エントランスホールの表彰控席に集合すること。表彰時の服装はチームジャージ、チームTシャツを原則とする。

16. メインスタンドでの立っての応援・観戦、集団応援は大会運営に支障をきたす場合があるため禁止する。また、その他の場所においても競技の進行の妨げとなるような応援はしないこと。

17. 観客席でのシート等による場所取り・簡易テントの設置は禁止する。また、コンコースでのシートのみの場所取りは認めるが、通行の妨げにならないように注意すること。

18. 医務係は、競技場のメインスタンド下の医務室で待機している。大会出場中の急病・事故については応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

19. 大会運営に支障、問題が生じた場合は総務委員で協議して解決にあたる。抗議は、結果発表後30分以内に該当校の監督が各支部専門委員に申し出ること。

20. 補助員を原則として各校1名以上出すこと。補助員になっている生徒は、第1日目は9:30、第2日目は9:00に正面ピット付近に集合すること。(放送をかける)

21. 貴重品の管理は、各自で行うこと。紛失の責任は負わない。

22. ゴミは各校・各自で持ち帰ること。競技終了後の清掃は、1日目は岩柳・徳山・長北地区、2日目は山防・宇部・下関地区で行うこと。